



“心豊かに
笑顔あふれる”

青森県
総合社会教育センター

響

所報〈ひびき〉

No.
122

令和4年6月30日

私のこだわり ～ 日々の生活と学び ～

青森県総合社会教育センター 所長 赤尾 芳伸



人は誰でも何かしら「こだわり」を持っているものです。これが熟す（過ぎる）と、哲学とか美学とか呼ばれることもあります…

私の場合は、物事の意味や関係について、くどくど考え、気が付けば大分時間が経過しているといったことは日常茶飯事です。就職したての頃は、先輩から「お茶漬けのように、さらさらと」仕事するよう言われたこともありました。特に、形や性質、状態の切り口から、「形式と実質」、「主観（主体、人）と客観（客体、物）」、「精神（心）と物質（身体）」、「理論（理想、規範）と実践（現実、事象）」といった対抗軸を立て、複眼的に考えるという習癖があります。

さて、県教育委員会では、「学びを生かし、つながりをつくり出す社会教育」という方針を掲げており、当センターもこの方針のもと、いろいろな取組を進めているところです。

行政サービスの立場、視点として、住民の皆さんがさまざま見聞し、体験できる機会を増やし、「学び」についての認識を深めたり、意欲を高めたりしてもらえるよう努めていますが、それ以上に重要なのは、皆さんが、「学び」の行動を日々の生活の中にどうやって組み込み、溶かして、生活をより豊かなものにし、世界を広げるか、だと思っています。

それでは、その「学び」とは、どういうことなのか。具体的には、知る、考える、感じるなどの行為になりますが、生活に溶かすという意味で着目したいのは、次のことです。

一つは、その目的、意識について。例えば、同じ本を読んでも、あるいは同じスポーツをしても、そこから何を感じ、会得するかは人それぞれです。もう一つは、その方法、所作について。学びは全身で行うものです。技芸など身体を使う場合は当然ですが、例えば「記憶する」という場合にも、見る、聴く、書く、話すなどの方法で、各感覚、運動部位を使っています。そして、反復継続することで身に付きます。同じ行為をしても、人それぞれ、その意識や能力、個性などによって、得られるものは違います。学び方を探ることも重要です。

次に、生活を取り巻く内外の環境、世界はいろいろと変化します。その規模や速さはまちまちで、一様ではありません。置かれている状況や取り組む課題の性質によって、学びの方法や効果も違うはずですが。

最近、デジタル化が大きな話題です。大量のデータの編集、保存活用（特に検索）に便利ですし、情報や価値等（無体物）を通信で瞬時に移動・伝達できます。遠隔操作での有体物の組立、加工等もできます。AI（人工知能）化も進んでいます。私も電子書籍、AIスピーカー、電子マネー等を利用しており、とても重宝しています。

おわりに、私のこだわりをもうひとつ

「余白の美」

それは、余韻、余裕、あそび、伸びしろ…

青森県総合社会教育センター



〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <https://www.ais.pref.aomori.lg.jp/>

ホームページをご活用ください！

当センターでは、ホームページをとおして皆様に学習情報等を提供しています。

(1)センターホームページ

センター主催事業の情報や、研究紀要、所報など刊行物のバックナンバーを掲載しています。



(2)ありすネット

県内各地の講習会等学びに関する情報や、視聴覚ライブラリーで借りられる教材の検索など、県民の生涯学習を支援する情報を提供しています。



(3)eラーニングサイト

- ・あおもり学インターネット講座
- ・元気青森人 PowerUp コンテンツ
- ・あおもり子育てネット

郷土に関する視聴覚教材や講座等の動画、就労・職業に関する動画や、子育てに関する情報を掲載しています。

○注目情報○

あおもり学インターネット講座が新しくなりました！



昨年度、新たなeラーニングコンテンツとして「あおもりエトセトラ」を制作し、配信しています。

「自然」「食」「祭り」「伝統工芸」「方言」「縄文遺跡」の6つのテーマから青森県のことを楽しく学べる内容となっています。ぜひご覧ください！

「自然」「食」「祭り」「伝統工芸」「方言」「縄文遺跡」の6つのテーマから青森県のことを楽しく学べる内容となっています。ぜひご覧ください！

そのほか、Facebookでもセンターの様々な情報発信を行っています。ぜひご活用ください！



青森県総合社会教育センター

検索



～私たちが、青森の社会教育を熱くする～ 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

社会教育関係職員等の資質向上を目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題解決につながる知識・技能の習得を目的としている研修講座です。

令和4年度は、以下の3点に力を注いで運営して参ります。

- ① **幅広い内容**～県の方針と重点を受け、様々な分野の研修内容を網羅しています。写真にある講師陣が、社会教育の魅力に引き込みます。
- ② **手軽に受講するための支援**～講義においては、WEB会議システムを用い、職場等からの受講も可能としました。移動などに係る時間の削減となります。
- ③ **周知活動のデータ化**～講座参加に必要な情報を、データ化したもので提供します。紙使用の削減、かさばらない情報保持がねらいです。

日程や各講師陣など、詳しくはこちらから。



〈家庭教育に関する事業のご紹介〉

1 子育て支援ボランティアを始めてみませんか

「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座」



地域における家庭教育支援体制を整備するために、家庭教育支援者を育成し地域の子育てを支援するのが目的の講座です。今日の家庭教育支援事情や家庭教育支援者としての理論学習・心構えを学んだり、実際の子育て支援団体を参観したりします。「子どもが好き!」、「地域のために何か役立ちたい。」、「生きがいを見つけたい。」等、子育て支援ボランティアを始めてみませんか。今年度は、上北地区と西北地区で開催します。

◆開催日等：各会場ともに、6月から11月まで全6回

上北地区：三沢市国際交流教育センター 西北地区：つがる市生涯学習交流センター「松の館」

◆対象：家庭教育支援者をめざす方及び活動中の方、家庭教育支援に興味・関心のある方

◆内容：今日的な家庭教育支援の現状、課題及び解決方法について講義形式で学んだり、「あおもり親楽プログラム」の活用について演習形式で学んだりします。

◆定員：各地区30名

「あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ養成講座」

家庭教育アドバイザーとして活動中の方のためのスキルアップ講座です。Web 会議システムを使ったオンライン形式で開催します。

◆開催日等：第1回7月24日(日)、第2回9月17日(土)

◆対象：あおもり家庭教育アドバイザー

◆内容：第1回 講義「離乳食についてと幼児期の食と栄養」 演習「あおもり親楽プログラム」
第2回 実践発表「県内の家庭教育支援の実践」 情報交換

◆定員：100名

★どちらの講座も、申込み・問合せは県総合社会教育センター教育活動支援課まで

2 子育てであるあるエピソードを通じ、家庭教育について考える

「あおもり家庭教育アドバイザー派遣」

青森県教育委員会では、子どもの理解や親子の関わり方など、家庭教育に関する研修会等の機会に、要請に応じてアドバイザーを派遣する仕組みを整えています。

◆対象：PTA、学校、市町村、市町村教育委員会、公民館、幼稚園、保育所、子育て・家庭教育支援団体等が行う参加予定者が5名以上の家庭教育支援に関する研修会、学習会、講座等

◆経費：派遣にかかる経費(旅費)は県総合社会教育センターが負担します。

◆申込方法：派遣希望団体は、派遣申込書を県総合社会教育センターに提出してください。(様式は当センターホームページ「ダウンロード」から)



3 子育てで困ったら、ひとりで悩まず、まずは電話かメールで相談!

「すこやかほっとライン」

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行っています。

◆対象：乳幼児から高校生までの保護者や家族

◆相談分野：相談分野は、発育・発達、養育・しつけ、対人関係等、子どもに関する悩みや家庭教育全般

◆電話相談：017-739-0101

毎週月・水・木曜日13:00~16:00(祝日・年末年始を除く)

◆メール相談：24時間受付 <https://kosodate-a.net>



問合せ先 教育活動支援課 TEL 017-739-1270

「魅力ある事業や講座、活動」を紹介します！

今回は「大間町 地域づくり団体 ツナグ」の魅力をお伝えします。大間町教育委員会に勤務し、社会教育士の資格をもつ代表の藤枝さんが、どのような思いをもって活動しているのか等の紹介をします。

「大間町 地域づくり団体 ツナグ」



ふじえた あきら
代表 藤枝 誠 さん

人と人が交流することによって、「助け合い・学び合い・支え合い」ができ、豊かな地域づくりができると考えています。そのためにも、まずは交流できる場所の提供や、人と人を繋ぐことが目標です。

Q 活動を始めたきっかけは？

A この団体を立ち上げたのは、仕事の一環で、昨年の夏に弘前大学での「社会教育主事講習」を受けたことがきっかけです。その講習会で、地域に住む人が「ここに行けば誰かと繋がり、交流ができる」という住民主体の活動事例があることを知り、大間町にも住民が気軽に集まることができる場所を作りたいという気持ちが芽生え、昨年8月下旬に第1回目の活動を始めました。

また、活動を始めることで、町内で子どもが室内で思いっきり遊ぶことができる場所が少ないという地域の課題も解消するのではないかと考えました。

Q どのような活動を行っていますか？

A 現在、定期開催しているのは「地域憩いの場」になります。この「地域憩いの場」では、当団体が施設を利用している間は、住民の方は自由に来場でき、施設内で過ごすことができるというものです。

ただ施設を開放するだけでなく、施設内の軽運動室では子どもが楽しむことができるように室内遊具を設置し、小さいお子様連れの家族が思いっきり遊ぶことができるようになっています。



「大間町 地域憩いの場」活動の様子

Q およそどのくらいの人数が集まりますか？

A 第1回目の活動のときは、1家族だけの来場でしたが、半年後には平均5家族12人程度に利用になり、現在では平均9家族25人程度の来場者になりました。

Q 課題などはありますか？

A 運営維持するための資金面が課題です。来場者からの入場料等の徴収や、行政からの補助金などは考えていません。

地域に住む人たちで知恵を出し合い、令和3年度は一般財団法人へ助成金の申請をしましたが、良い結果を得られなかったため、現在はクラウドファンディングによる資金調達ができないかとチャレンジしています。

Q 新たに計画している活動はありますか？

A 今年度は、当団体が所持しているエアーストーム遊具を活用した、町内での夏の水遊びイベントの開催です。現在、2個のエアーストーム遊具を所持し、室内で滑り台やトランポリンやボール遊びに活用しておりますが、水を溜めて水遊びができる仕様にもなっているため、暑い夏の日、屋外にて親子で水遊びをし、楽しめるようなイベントの計画を進めています。

Q 今後の抱負などを教えてください。

A とともに地域を良くしたいと思い、本活動に対して応援や協力してくれる「人財」がいるため、「田舎だから何もなくてしょうがない」のではなく「田舎だからこそ都会と違い、地域でできることがたくさんある」という気持ちで、町に活気が溢れるよう微力ながら尽力し、今後も活動を展開していきたいと思っております。

当団体の目玉遊具「エアーストーム」



寄付された玩具・マット

Instagram



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》



人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。